

-93- ^{111}In -Bleomycin を用いた女性性器腫瘍の
について

東京慈恵会医科大学第二産婦人科学教室

○石川卓爾、伊藤治英、大須賀啓暢

同 放射線科

五味 誠、服部文夫、川上憲司

近年、腫瘍親和性の高いradioisotopeの開発が目覚しく、又scanner、cameraの発達もあり、isotopeを用いたtumorscanningが盛んに行われ、その診断的価値が高く評価されてきている。

我々は、最近開発された ^{111}In -Bleomycinを使用して、女性性器腫瘍を対象とし、scanner、camera、及びPhoconにより得られたdataを分析し、これらと開腹時所見による腫瘍の拡がりの程度や構築状態を対比し、その診断的価値を検討した。

症例は、当科に入院中の患者の25例で、その内訳は子宮頸癌14例、外陰癌2例、卵巣癌2例、絨毛性腫瘍2例、及びその他の疾患が5例である。

検査の実際には、当科に提供の製剤を使用した。即ち1vialに5.5mCiを含み、pH4~7、生理的食塩水に溶解し、5ml中、Bleomycin 3.3mgを含む。放射能濃度1.1mCi/ml、比放射能 $>5\text{mCi}/\mu\text{gIn}$ 、半減期2.81日である。患者には2.5mCiを静注し、24時間後、48時間後にscanner、camera、及びPhoconを用いて検査した。その結果得られた正常像は骨髄、脾、及び肝などの血液の豊富な臓器に取り込みがみられ、又尿排泄性のため腎も描出されるが、腸管や骨盤腔は比較的造影され難いと認められた。

現在までの成績をまとめると、まず、子宮頸癌、外陰癌等の扁平上皮癌では病巣は勿論、旁結合織、隣接臓器への浸潤の程度、転移リンパ節の有無についてかなり正確に描出されたが、Bleomycin使用中の1例、

CISの1例、及び断端癌の1例の計3例には陽性像が得られなかった。

卵巣癌の2例は、組織学的にはいずれも腺癌であったが、その1例は癌性腹膜炎を併発しているにも拘らず、他の尿管原発の腺癌の例と共に取り込みはみられなかった。

また絨毛性腫瘍でも子宮に於ける原発巣の局在、肺転移巣の機相がかなりの確に造影された。

以上の結果から、女性性器腫瘍の診断には勿論、子宮頸癌の手術適応の検討、照射野の決定、外照射前後の治療効果の判定に有効であると認められる。

-94- ザルコイドーシスにおける ^{67}Ga -citrate
によるシンチグラムの臨床的意義

九州大学医学部放射線科

○仲山 親、駕海良彦、森田一徳、

古賀一誠、鴨井逸馬、松井正典、

松浦啓一

宮崎医科大学放射線科

渡辺克司

はじめに

^{67}Ga -citrateは各種悪性腫瘍のみならず、炎症性疾患にも集積を示し陽性像を画出するため、質的診断には有効ではない。

今回、われわれは臨床的にザルコイドーシスと診断された患者に ^{67}Ga -citrateによるシンチグラフィーを行ない、レ線をもあわせて比較検討した。

対象および検査方法

対象としたのは昭和46年11月より昭和51年3月までに当科において検査した患者16例で、レ線写真、Kveim test、生検等により診断されたものである。

検査方法は ^{67}Ga -citrate 3mCiを静注し72時間後に胸部を前後から撮像したが、場合によっては他部位も検査した。

使用した機器は島津製スキャナー (SCC-230S-A, SCC 15US)、東芝カメラGCA102 およびNuclear Chicago社製カメラ ^{67}Ga Gamma Ⅲである。

結果

胸部レ線上の異状所見と比較して、約8割に一致した異常集積を認めた。集積の度合いも強いものが多く病変の分布を明瞭に描出できた。また、レ線で指適されていない肺窩、鎖骨上窩および腹部に異常集積を示す症例もみられた。

まとめ

ザルコイドーシスの診断はレ線写真、Kveim test および生検等によりなされるが、 ^{67}Ga -citrateによるシンチグラムは病変の分布および、経過の観察に有効であると思われた。